

第 11 回 札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会を開催

札幌開発建設部では、幾春別川総合開発事業について事業費・工程監理の一層の充実を図るため、コスト縮減策やその実施状況、事業の進め方等について学識経験者等のご意見を頂く場として、「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」を開催いたしました。

記

- 開催日時 平成30年9月27日（木）15：00～17：00
- 開催場所 札幌開発建設部 会議室
- 議 題
 - (1) 事業の概要
 - (2) 平成29年度の工事実施状況
 - (3) 平成30年度の工事内容
 - (4) 主な意見に対する対応状況
 - (5) コスト縮減への取り組み
 - (6) その他



「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」委員名簿 ◎委員長（敬称略、五十音順）

名前	役職等
◎泉 典洋 いずみ のりひろ	北海道大学大学院工学研究科教授
平井 康幸 ひらい やすゆき	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ グループ長
向田 直範 むかいだ なおのり	北海学園大学 名誉教授
山下 弘市 やました ひろいち	元北海道土木技術会コンクリート研究委員会委員

◆結果の概要◆

札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会では、議題について、工事実施に係る事業費・工程監理に関する事項、第10回の当会議（平成29年開催）で出された主な意見に対する対応状況、コスト縮減案等に関して審議いただき、妥当であることが確認されました。

○事業の概要

- 実施箇所 北海道三笠市
- 事業期間 昭和60年度～平成32年度
- 総事業費 約922億円

○事業状況

- 事業費ベースの進捗率は平成29年度末で約71%。
- 平成31年度は本体工事、付替道路等を実施。
- 物価上昇、台風等自然災害などにより、総事業約1,150億円、事業期間平成35年度までの基本計画変更手続き中。

○主な意見

- グラウトトンネルは施工設備であり管理設備ではないため、新桂沢ダムの試験湛水終了後に坑口2～3mまでを閉塞することを提案する。
- 新桂沢ダム貯水池内の樹木は、湛水により立ち枯れすると景観上好ましくないと考えられるため、冠水頻度を勘案のうえ伐採範囲を決めることを提案する。
- ダムコンクリートの収縮ひびわれをシート養生により抑制した事例があることから、新桂沢ダム堤体打設完了後の越冬養生については、ダム上流・下流面にシート養生を実施することを提案する。
- 新桂沢ダムコンクリートの長期安定性能、耐凍害性能を確認するため、管理移行後に物理試験を実施可能なように、テストピースの長期暴露を提案する。

○審議内容

- 前回委員会で指摘した新桂沢ダムの越冬養生は、適切に実施されたことを確認した。
- コスト縮減案として提案された両ダムの管理棟規模の縮小は、両ダムの管理方式や他ダム事例も踏まえ、必要な機能の精査を図った上で検討されていることを確認した。
- コスト縮減案として提案された三笠ぽんべつダムの流木捕捉設備の見直しは、最新の他ダム事例を踏まえ、必要な機能を検討されていることを確認した。
- 物価上昇、台風等自然災害などにより、コストと時間を要することを確認した。

（以上）